

国語 第5学年 名前を使って、自己しょうかい / 続けてみよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

名前を手掛かりに言葉を選び、自分の特徴が伝わる紹介を工夫する。学習の記録は、名前の音を生かした自己紹介文と、表した自分の特徴である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。
〔第5学年及び第6学年〕B 書くこと(1)カ	カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。

単元の目標

文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。（〔知識及び技能〕(1)カ）

文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（B(1)カ）

名前を手掛かりに言葉を選び、自分の特徴が伝わる紹介を工夫する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）	①「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（B(1)カ）	①名前を手掛かりに言葉を選び、自分の特徴が伝わる紹介を工夫する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全1時間（書1）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 自分の名前の文字を手掛かりに、紹介したい特徴を表す語を集める。字の条件を満たすだけでなく意味が伝わる文を作り、読み合って言葉の選び方を見直す。読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



本時の案

本時の目標：文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（B(1)力）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「選んだ言葉は、自分のどんな面を伝えますか」 【めあて】名前を手掛かりに言葉を選び、自分の特徴が伝わる紹介を工夫する。 〈予想される児童の反応〉 ・名前の音から自分らしい言葉を選びたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「選んだ言葉は、自分のどんな面を伝えますか」 自分の名前の文字を手掛かりに、紹介したい特徴を表す語を集める。字の条件を満たすだけでなく意味が伝わる文を作り、読み合って言葉の選び方を見直す。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・名前の音から自分らしい言葉を選びたい。 ・言葉だけを合わせると自己紹介にならなかった。	名前の文字から思い付く語を先に出し、その中から自分の性格や関心を伝える語を選ぶ。語の条件と紹介内容の両方を読み手と確かめ、文同士のつながりを直す。 想定する難しさ：名前の音に合わせるだけで本人の紹介内容がなくなる。 評価では、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けているかを、名前の音を生かした自己紹介文と、表した自分の特徴と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 名前の音を生かした自己紹介文と、表した自分の特徴を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・言葉だけを合わせると自己紹介にならなかった。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「選んだ言葉は、自分のどんな面を伝えますか」。中央は、名前の音を生かした自己紹介文と、表した自分の特徴に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

名前の音に合わせるだけで本人の紹介内容がなくなる。この難しさには、名前の文字から思い付く語を先に出し、その中から自分の性格や関心を伝える語を選ぶ。語の条件と紹介内容の両方を読み手と確かめ、文同士のつながりを直す。評価では、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けているかを、名前の音を生かした自己紹介文と、表した自分の特徴と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録

名前の音を生かした自己紹介文と、表した自分の特徴を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと

最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（5年）「5年」16行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

